

第3次計画策定後の変化

- 2030アジェンダ、パリ協定の採択(2015年)
- 国が第5次環境基本計画において、SDGsの考え方を取り入れた。
- IoT、AI等の技術革新が進展 ⇒ Society 5.0へ
- 生態系や生物多様性を活用したEco-DRRやグリーンインフラといった視点での取組に注目

第3次計画の成果と課題

- 環境保全活動の促進、健康で安全な生活環境の確保、ごみ減量・リサイクルの推進などに着実に取り組んだ。
- 取組方針及び施策の方向を、社会情勢等に的確に対応したものに見直す必要がある。
- 適切な指標を設定し、進捗管理を実施することで計画の着実な推進を図る必要がある。

名古屋市総合計画[2019年10月策定]

[まちづくりの方針]

- 新しい時代にふさわしい豊かな未来を創る！世界に冠たる「NAGOYA」へ
- SDGsの理念を実現し、持続可能な未来をきりひらく！

[めざす都市像]

快適な都市環境と自然が調和したまち

第4次計画策定の基本的方向（案）

① SDGsの考え方の反映

包摂性（誰一人取り残さない）、参加型（あらゆるステークホルダーの参画）、統合性（マルチベネフィット、複数の目標の統合的解決）というSDGsの考え方を取り入れる。

② 環境・経済・社会の統合的向上に向けた取組の具体化

環境課題の解決と経済・社会の課題を同時解決する分野横断的な取組を重点事業として掲げる。

③ 計画の実効性の確保

適切な指標の設定と進捗管理体制の構築により実効性を確保する。